

P O R T F O L I O



아름다운 세상 아름다운 마음으로
The story of beautiful Life that delivers warm thoughts into one's mind



PARK SU IL 박스일
박수일 朴秀日

1

神戸ミュージアムロード

(2011)

고베 뮤지엄 로드 활성화 기획 프로젝트

Kobe Design University GSAD Integrated Design Division Environment Design program 2011

[OPEN AIR MUSEUM]

2

日産テクニカルセンター里山づくり

「日産テクニカルセンター樹林地を活かすマスタープランとデザインおよび活動プログラムの提案」

日産賞・佳作作

(2011)

닛산 테크니컬 센터 숲 조성 계획 학생 국제 공모전

Nissan Technical Center Competition

[YAMABIKO]

3

神戸らしい眺望景観サインデザイン

(2011)

고베 조망 경관 50 / 10 사인 디자인

KOBE VIEW POINT SIGN DESIGN

VIEWS of KOBE CHOICES 50 VIEWS of KOBE 10 SELECTIONS

[MARUMI]

4

関西7大学ランドスケープデザイン展

(2011)

칸사이 7 개 대학 / 랜드스케이프 디자인 전

KANSAI 7 UNIVERSITY LANDSCAPE EXHIBITION

[BANYEO-2,3DONG in BUSAN ECO CITY PROJECT]

5

東日本大震災復興プロジェクト

(2012)

동일본대지진 / 쓰나미부흥프로젝트

HIGASHI JAPAN LANDSCAPE DESIGN

[UNOSUMAI LANDSCAPE DESIGN]

「OPEN AIR MUSEUM」

MASTER PLAN



2. 神戸ミュージアムロード・プロジェクト (2011)

Kobe Design University GSAD Integrated Design Division Environment Design Project

※企画・制作期間：2011年4月～7月 ※7月24日兵庫県立美術館長発表

※制作メンバー：YU ISHIDA・SHINOSUKE・NAKAGAWA (JAPAN)・SUL PARK (SOUTH KOREAN)・TUNG NUNG KHUPLIANLAM (INDIA)

「 OPEN AIR MUSEUM 」 PLANNING

OPEN AIR MUSEUM
11.10.2011 11:00 AM 11:00 AM 11:00 AM 11:00 AM 11:00 AM

CONCEPT DIAGRAM

OPEN AIR MUSEUM

このプロジェクトは、神戸市中央区の神戸ポートターミナル地区に、神戸ミュージアムロードの計画を提案しています。この地区は、神戸市の中心部にあり、神戸の歴史と文化を伝える重要な場所です。このプロジェクトは、この地区を、神戸の歴史と文化を伝えるための「オープンエアミュージアム」として再開発することを目的としています。

このプロジェクトは、神戸市の歴史と文化を伝えるための「オープンエアミュージアム」として再開発することを目的としています。このプロジェクトは、神戸市の歴史と文化を伝えるための「オープンエアミュージアム」として再開発することを目的としています。

INITIATIVE

CONCEPT PLAN

TIME SCALE

施設名	規模	用途	完成時期
神戸ミュージアム	約10,000㎡	展示・演劇	2015年
神戸歴史博物館	約5,000㎡	展示・学習	2016年
神戸港歴史館	約3,000㎡	展示・学習	2017年
神戸市立博物館	約2,000㎡	展示・学習	2018年
神戸市立美術館	約1,000㎡	展示・学習	2019年

CONCEPT PLAN

Kobe Design University GSAD Integrated Design Division Environment Design program 2011

1 . 神戸ミュージアムロード・プロジェクト (2011)
 Kobe Design University GSAD Integrated Design Division Environment Design Project

PORTFOLIO · 2011 + 2012

「 O P E N A I R M U S E U M 」

神戸ミュージアムロード・パンフレットデザイン
 Kobe Museum Road Project Pamphlet Design



おもて

1. 自転車コース案内ガイド・マップ
 (区間1～区間10の風景と所要時間・自転車返却所など)

2. 散歩コース案内ガイド・マップ
 (区間1～区間10の風景と所要時間など)

※寸歩：全210×297mm
 3段折り紙式

※制作期間：2011年5月～6月

「 O P E N A I R M U S E U M 」

神戸ミュージアムロード・パンフレットデザイン
Kobe Museum Road Project Pamphlet Design



う ら

3. ミュージアムロード案内ガイド・マップ
(区間1～区間10の施設案内・情報など)

4. 兵庫県立美術館展示案内・情報
(2011年度特別展・常設展情報など)

※寸歩：全210×297mm
3段折り紙式

※制作期間：2011年5月～6月

「YAMABIKO」

PLANNING / MASTER PLAN

NISSAN
 日産テクニカルセンター樹林地を活かす
 マスタープランとデザインおよび活動プログラムの提案

やまびこ

「身近に関われる里山林の再生」と「みんなで緑を育てるしくみづくり」

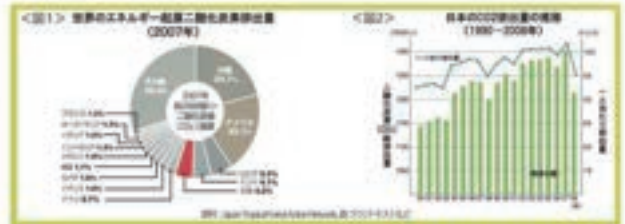


■ CONCEPT

日産の環境理念である「人とクルマと自然の共生」、「シシグア・エコイノベーション—Sincer Eco Innovation」、この理念を継承し、地球と将来の世代のため、2050年のモデルとなる低環境負荷で持続可能なモビリティ社会を創出した「自然循環型の森」をつくります。
 また、日産が環境化対策として二酸化炭素排出量の削減とともに続けている森づくり、その環境に対する取り組みの一環として、ここで提案するコンセプトは、「身近に関われる里山林の再生」と「みんなで緑を育てるしくみづくり」です。このコンセプトを実現するためには、広く一般の人々に森づくりに対する関心と動機を持たせ、参加してもらうことが重要であると考えます。森づくりへの参加者に対して、「バイオマスエネルギーと交換ができるエコチケット」を配布し、ECO-CAR(PHEV)の試乗や试驾の利用などを行えるしくみを提案します。参加する人々が楽しみながら森づくりに関わることができ、森づくりを継続することで、「身近に関われる里山林の再生」と「みんなで緑を育てるしくみづくり」の実現を目指します。



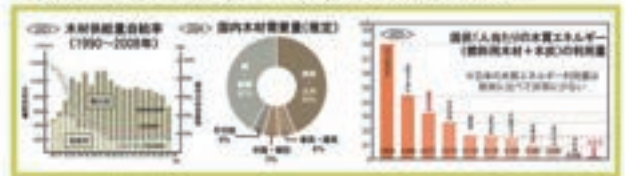
■ 世界と日本の二酸化炭素(CO2)排出量



共存・共生の環境循環型の森を目指して～

2007年のデータによると、世界の二酸化炭素排出量は約28億トンに二酸化炭素換算です。これを図1に見たものが図1のグラフ、日本が世界の4%強を占めていることがわかります。日本は、中国、アメリカ、ロシア、インドに次いで世界で5番目に多くの二酸化炭素を排出しています。国別によると、国別一人当たりの二酸化炭素排出量の場合、日本は中国人の約1.5人分、インド人の約3人分の二酸化炭素を排出しています。国別一人当たりの二酸化炭素排出量では、先進国の排出量が多くなっているのが現状です。日本の二酸化炭素排出量の推移を見てみると、2007年までは総量でも一人当たり排出量でも増加し続けていることがわかります。「森づくり」は、持続可能な社会、また緑の価値を基本とする必要があり、「人間」と「森」の共存が重要であると考えます。

■ 木材供給量自給率と国内木材需要量、国民1人当たりの木質エネルギー



「YAMABIKO」

PLANNING



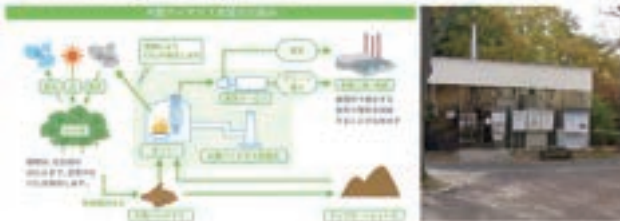
森の高齢樹を整備し、木材を環境にやさしい燃料化バイオマス利用する

ところで、「森づくり」を自然保護的な立場だけでとらえることには限界があります。木の家に住み、日々多くの木などを消費している我々は、森を利用し、森とともに生きていくことが重要ですが、実際、日本国内で消費される木材の内訳は、建築+土木の分野が約41%、紙+紙板として約42%、家具+建具として約8%、木造一般として約9%などと推定されています。ところが、薪は実量が安い輸入材の登場により、国産材のような自然の木材に持てる色、香り、木目といった品質が軽視されるようになりました。また教育・コンクリートによる建築が増えたことで、求められる木材の材質や産地が安定しないことも、輸入材の利便が増え続けることに加勢をかり、現在日本で利用される木材の約70%以上を輸入材が占めるまでになりました。



拡大造林政策によって植林されたスギ・ヒノキ林は現在になってようやく収穫期を迎えているにもかかわらず、伐採されぬまま放置されているのが現状です。燃料革命以降、いかに量産林が設置され高産化してきたかは、全国の樹齢別森林面積から読み取ることが出来ます。伐採後の樹木の萌芽能力は、樹齢が増すほど衰えていくため、量産林ではその再生力の低下が量産林に生じる影響物に及びます。このような現状を踏まえ、量産林の樹齢・材打ちなどを通して森林と人間の共生・共存をはかる必要があると考えます。環境面、森林水産省、経済産業省の三者は2012年に「バイオマス・ニッポン総合戦略」を発表し、地球温暖化防止や循環型社会の形成、新産業の創出、農山村の活性化を目指しています。森林のバイオマス利用は、森林のもつ公益的機能の発揮に貢献するため、極めて重要な戦略です。一方で、自然による転移を市民レベルに落とし込み、日常の生活や活動として継続させていくためには、市民に対して森づくりやバイオマス利用が重要なテーマであることを認識してもらうことが重要です。

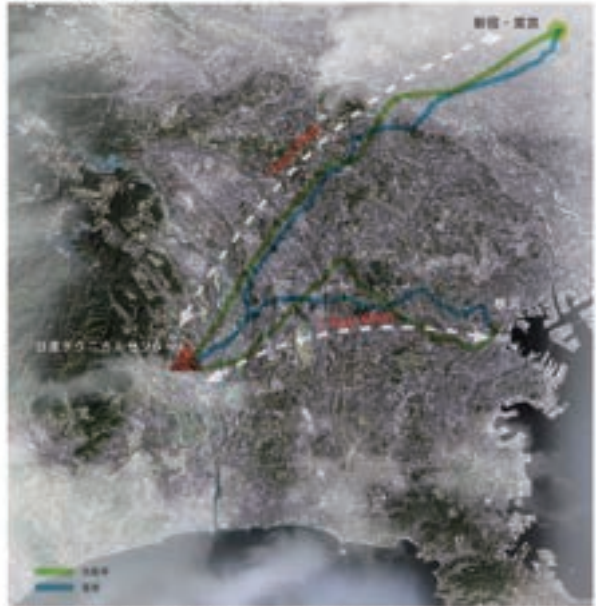
■ Circulation Program Energy(BIOMASS)



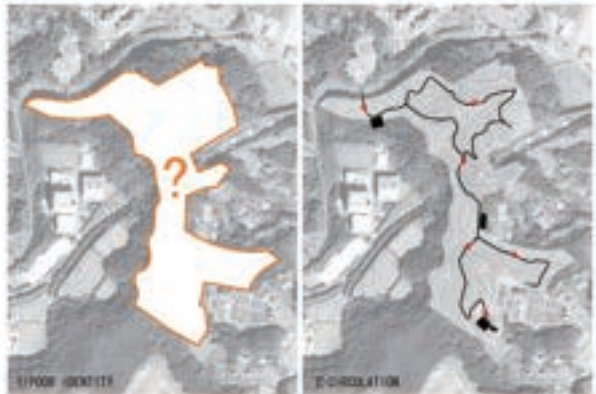
また一方で、大量に発生するバイオマスを利用するには、エネルギーとして活用することが効果的です。バイオマス燃料は化石燃料に比べると環境に対する負荷度が低いクリーンなエネルギーであり、量産林は樹齢と集積を繰り返すことで何回も再生産が可能なることから、非常に効率的なエネルギー資源であると考えます。しかしながら、日本においては、燃料として利用される木材は全体のわずか1%にも過ぎません(図5参照)。世界的には木材は燃料としてごく当たり前に活用されている資源であり、日本人がいかに化石燃料に偏った意識をもっているかがわかります。木材バイオマスのエネルギー利用で一般的なのが薪です。また、そのまま燃やせば熱を発生させる木質ペレットは、燃料化された薪ともいって木質燃料であり、取り扱いが簡単に容易です。木質は木を炭化させることで燃料化やすしたものです。木質エネルギーの活用はそれだけに留まらず、ガス化して発電することや、メタノールなどの液体燃料を取り出すことも可能であり、自動車も走ることもできるクリーンなエネルギーです。

■ 地形分析

◆ DEFICIENT ACCESS



直轄圏内で日産テクニカルセンターまでの距離は約15km、村に農道の整備からは徒歩、自動車でもおよそ50分から1時間程度は所要なので、新橋山頂と箕原、千歳、埼玉など、直轄圏の人々を中心に多種なプログラムを行うことができる。

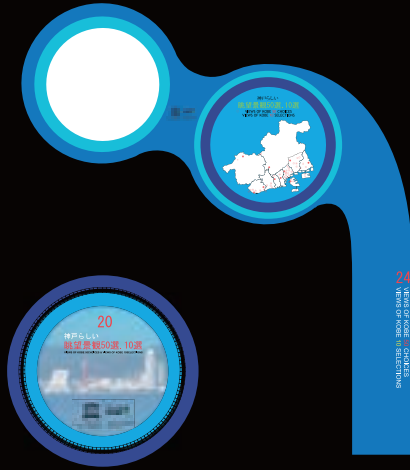


神戸らしい
眺望景観50選. 10選
VIEWS OF KOBE 50 CHOICES
VIEWS OF KOBE 10 SELECTIONS

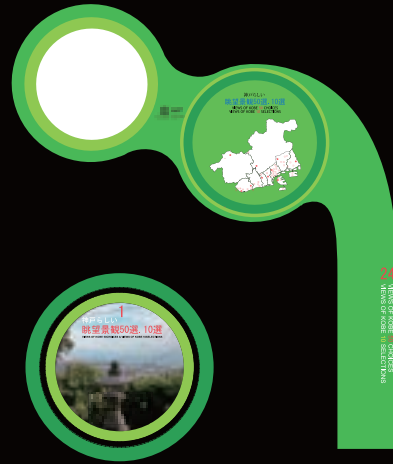


デザインコンセプトと概要

City of Design Kobeの「デザイン都市の神戸」で紹介されている、「阪神・淡路大震災」からの復興の過程でも分かるように、「人と人との絆や助け合いといったひとの素晴らしさに触れることができた神戸の復興と創造」を訪れた人々に神戸のまちの魅力を感じてもらえることを考え方とした。「まる美」は設置・案内のサインにとどまらず「神戸らしい眺望景観ビューポイントサインデザイン」をより楽しめるよう、サインの視点場をより楽しめるようサイン内に望遠レンズによる視点空間をつくり多角的な眺望効果を楽しめるように制作したのが特徴である。提案①のブルーデザインは、港湾都市である神戸市の海のビューポイントを楽しめるようにし、提案②のグリーンは六甲山・摩耶山などの緑の眺望景観のサインデザインに適用するようにしたのが本デザインの意図である。

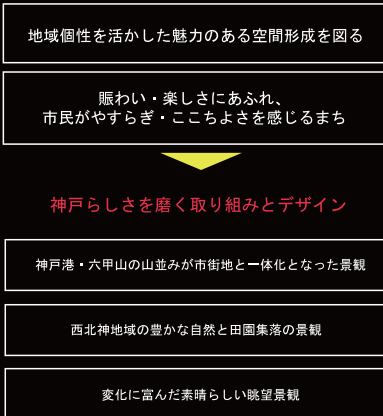


marumi blue
独立型サインと埋め込み型サイン

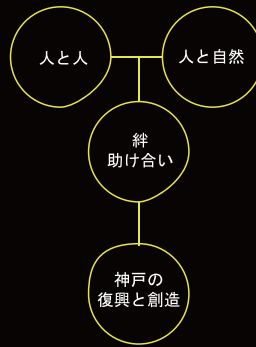


marumi green
独立型サインと埋め込み型サイン

デザイン都市・神戸の取り組み

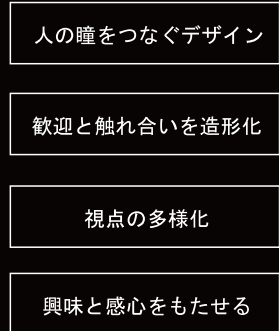


神戸らしい眺望景観50選・10選



人と人、人と自然との絆や助け合いといった、「ひと」と「自然」の素晴らしさに触れることができた神戸の復興と創造を強調、眺望景観が楽しめるデザイン

サインデザインの考え方



【独立型サインデザイン】

marumi blue
独立型サインと埋め込み型サイン

【カラー情報】

- C=91.37%
- C=88.24% M=03.14%
- C=90.98% M=36.86%
- C=92.94% M=71.37% Y=04.71% K=00.39%

marumi green
独立型サインと埋め込み型サイン

【寸法】

※カラー情報

10 C=03.14% M=01.96% Y=91.37% K=00.00%

50 C=01.18% M=96.08% Y=91.37% K=00.00%

色情報: C=01.18% M=96.08% Y=91.37% K=00.00%

【カラー情報と位置】

【デザイン都市神戸のロゴマークの位置】

【marumi greenロゴマークの例】

※カラー情報

・赤: 50 10

・青: C=01.18% M=96.08% Y=91.37% K=00.00%

・青: 青 眺望景観50選、10選

C=90.98% M=36.86%

LEFT RIGHT FRONT LEFT RIGHT FRONT

【独立型サインのロゴマーク情報】

24 1~50選の番号を付ける

色情報: C=01.18% M=96.08% Y=91.37% K=00.00%

【独立型サインデザインの提案】

【50選+10選マップ】

1~50選の位置に番号、名前を付ける

- 10選の色
- 50選の色

【透明素材などを使用した眺望図】

望遠鏡の原理と同じように、長距離を眺めることができる望遠レンズや透明ガラス・プラスチックなどを付着し、視点場での多様な視覚的な効果はもたらん、子供や観光客に興味をもたせるようにデザインした。

※レンズの場合、表面に薄い、灰色にして太陽光を遮断する
 ※全体ボディ素材は壊れにくい、強いプラスチック素材

【埋め込み型サインデザイン】

埋め込み型サインデザイン—BLUE—

埋め込み型サインデザイン—GREEN—

眺望景観50選・10選

【ロゴマークの例】

【デザイン都市神戸のロゴマークの位置】

【カラー情報】

- C=28.63% Y=97.65%
- C=93.73% Y=100%
- C=88.24% M=03.14%

- C=01.18% M=96.08% Y=91.37%
- C=92.94% M=71.37% Y=04.71% K=00.39%

神戸らしい

眺望景観50選・10選

VIEW OF KOBE 50 CHOICES & 10 SELECTIONS

→ 太い明朝・白又は黒

→ 細いゴシック・赤

→ 太いゴシック・黒

→ 白又は黒(神戸市マークは緑色)

PHOTO ZONE: 写真撮影のためのフォトゾーン

- 滑りにくい透明素材を使用
- 地面の高さ
- 眺望点からの代表景観写真
- LEDライト: 夜にもきれいにライトアップ
- 素材: 滑りにくいプラスチック又は金属素材

【独立型サインデザイン】 【埋め込み型サインデザイン】

神戸らしい 眺望景観50選・10選 VIEWS OF KOBE 50 CHOICES VIEWS OF KOBE 10 SELECTIONS

「釜山市の傾斜面まち盤如洞街づくり」
PLANNING

釜山市の傾斜面まちデザインプロジェクト

釜山市の傾斜面まちの盤如洞街づくり

対象地と釜山市再開発整備事業について



＜研究・制作の考え方＞



研究概要

研究の対象となる釜山市の海雲台区は、韓国東南部に位置し、北側の真山と南側の海に囲まれている韓国で有名な観光地として、2000年代から海雲台海水浴場周辺のニュータウンをはじめ、釜山市の中でもっとも開発が進んでいる地域である。ところが海雲台区の都市開発・整備などの地区や形、様子などをみると、南側の海周辺で高層アパートばかり立ち上げられており、北側の傾斜面まちである盤如洞や盤松洞などは傾斜面まちの地形性を活かしていないまま零碎な生活環境の中で生活をしている。そして同区の間でも開発・整備などを含め、社会公共施設などが不足しており、様々な問題などで同区の間で格差は激しくなっている現状である。また釜山市や海雲台区の「2020都市開発推進案」によると、傾斜面まちの開発・整備は地形的な条件などを考慮した開発推進になっている。位置や条件などを問わず利益中心の高層アパートを中心に開発を推進している。本研究の作品制作・提案としては、ニュータウンのような高層アパートなどの全面的開発ではなく、傾斜面を中心とした現在の問題を盤如洞の特性に合わせ、部分的提案をはじめ、持続可能な傾斜面まちのための新エネルギーを使用したエコまちづくりの段階的な適用について提案しデザインすることである。

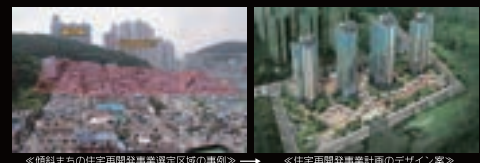
釜山市「2020都市再開発・建築」改善・推進案

1. 自然環境保存施設拡大案検討
2. 公営開発事業拡大推進
3. コミュニティー空間拡大造成
4. 高地帯・傾斜面など地形条件を考慮した開発・整備推進
5. 周辺の地域と協同・連携した開発・整備
6. 小型・小規模開発・整備事業の拡大

釜山市が提示した都市再開発・建築の問題点

1. 利益中心に伴う開発優先などで、公共施設不足
2. 過密・高層APT開発中心による周辺住居環境悪化と再定着率減少
3. 事業施行者(大手建築会社など)の開発利益独占
一地方都市の建築穿設業・雇用効果に役に立たない
4. 過度・大型の開発による地域コミュニティ崩壊など都市問題発生
5. 周辺の景観や自然・地形などが破損

釜山市の2020都市再開発・建築計画の事例案



※2009年基準

住居環境改善事業	住宅再開発事業	住宅再建築事業	都市環境整備事業
共同住宅 7カ所	推進区域 141カ所	推進区域 41カ所	推進区域 17カ所
現地改良 105カ所	未推進 32カ所	未推進 31カ所	未推進 26カ所
共同・改良 5カ所	ニュータウン 14カ所	ニュータウン 1カ所	ニュータウン 4カ所
ニュータウン 7カ所	完了 3カ所	完了 6カ所	完了 2カ所
完了 7カ所	総 190カ所	総 85カ所	総 49カ所

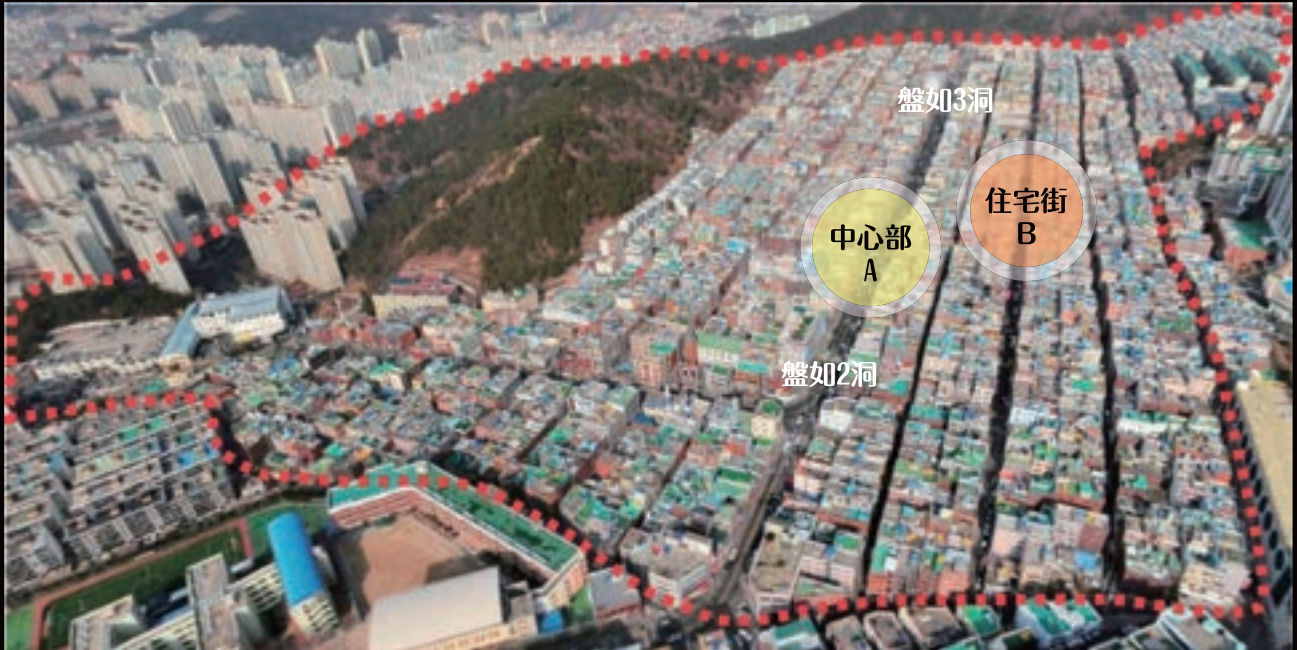
＜釜山市の2020都市基本計画＞

※出典：釜山広域市役所

「釜山市の傾斜面まち盤如洞街づくり」

PLANNING / MASTER PLAN

対象地の分析



盤如2/3洞の紹介



1970年代
移住地

世帯
住宅供給
人口密度
高い

交通問題
最悪の駐車難

傾斜度による
上下のまちの
距離感



《傾斜面まちの盤如2洞の様子(1970年代)》

・盤如洞の気候：
年平均気温14.1°（8月：25.9°、0°以下年平均51日）、
温暖海洋性気候、平均降水量：1472.7mm（夏46.5%）、風速4.3m/s(強)

・盤如洞の地形とまち構成：

平地の盤如1洞より約15～20度以上の傾斜度まちの盤如2洞があり、盤如2洞から盤如3洞にいたるまで傾斜面になっている。盤如2・3洞は坂と平地の両面になって坂の住宅街と平地の商店街になっている。東部の真山(634m)は南部の海と西の市街地を眺望ができる。東部の真山(634m)は釜山で2番目の高い山で、真山を中心に西側は盤如洞、南東側の海雲台、北側の盤松洞に分けられ、東西南北の登山路があり、山の頂上では西部の市街地と南東部の海を眺望ができる真山がある。

2.04
m
面積

37,443
名
人口

12,787
世帯
世帯数

真山
(釜山真2山)
認知度・高さ

古い市場

様々な屋根の色
(レインボウ村)

激しい傾斜度

月見まち

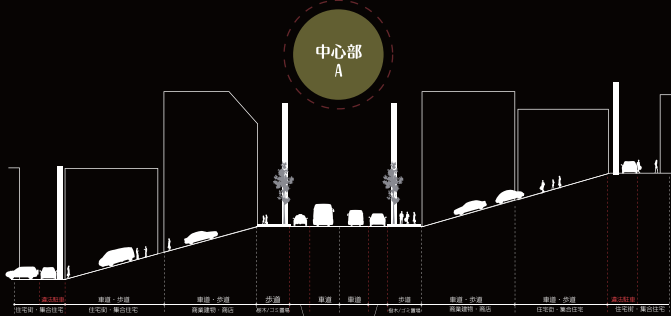
移住地

人口過密地
駐車場所不足!

海雲台区内
地まちとの
格差

盤如2/3洞のイメージと現状

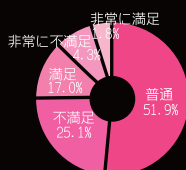
傾斜面まちの盤如2洞の中心部



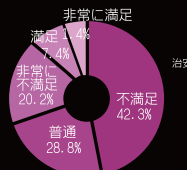
《傾斜面まちの盤如2洞の中心部の断面図(1/400)》



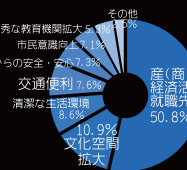
《傾斜面まちの盤如2洞の中心部と周辺の住宅街の写真(※出展：NAVER)》



《歩行者道路に関する満足度》



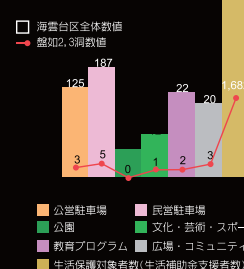
《駐車施設に関する満足度》



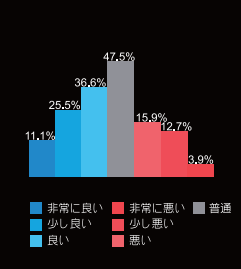
《住みやすいまちづくり》

《海雲台区のまちに対する住民のアンケート》

《海雲台区の施設》



《海雲台区の生活環境》



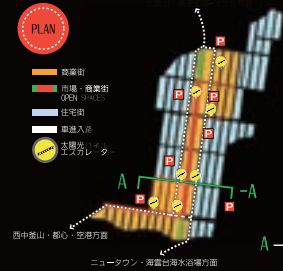
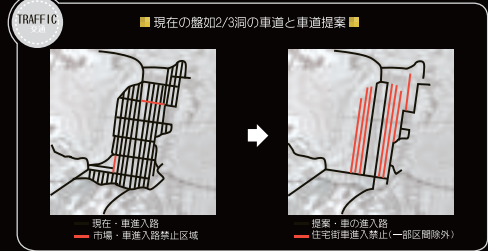
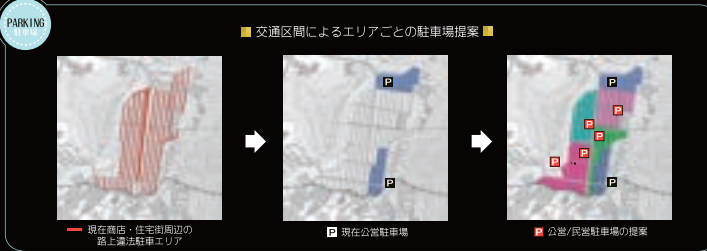
※出典：海雲台区役所・釜山市行政地図

「釜山市の傾斜面まち盤如洞街づくり」

PLANNING / MASTER PLAN

釜山の傾斜面まちの盤如洞街づくり
釜山の傾斜面まちの盤如洞街づくり

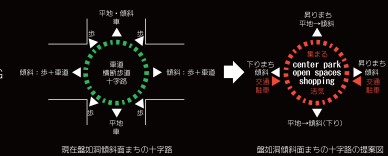
■ 対象地分析まとめ・展開図と計画案



■ 傾斜面まち盤如2/3洞の中心部の提案(断面) ■



■ 傾斜面まちの十字路の提案図 ■



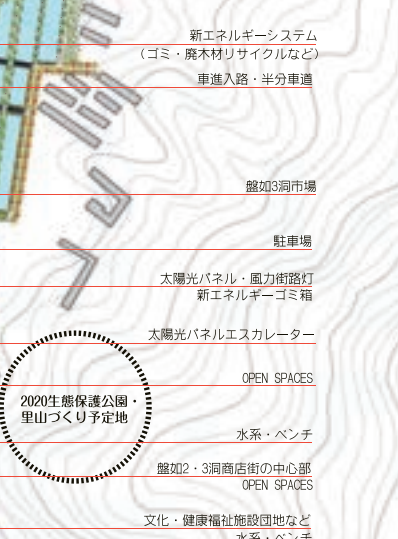
MASTER PLAN

TRAFFIC 拡大より効率的な縮小でより便利になる
盤如2・3洞の零細な歩道と駐車場を最優先して不必要な車道をなくし、駐車場にそって車道は西の都心と空港、南の新都市・観光地、北のソウル方面の高層道路などに進入しやすい構造で提案した。

PARKING 駐車場の位置と条件がまちを変える
盤如2・3洞の深刻な問題である駐車場を、傾斜面の盤如洞の地形と特徴から、住宅街と市場などの商店街の生活環境の合わせて駐車場を提案し、住民だけではなく外部の人でも住宅街、商店街を便利に利用することができるようになる。

SHOPPING 駐車場と車道の動線で商店街・生活の活力
盤如2・3洞の古い市場を「J」でつないで各区間の十字路エリアをオープンスペースで提案。盤如2・3洞の住民の自然な生活のながれにしたがい、駐車場の位置と車道、広場、商店街をつないで、より便利に商店街や広場に入ることができ、まちの活力をあたえる。

OPEN SPACE 上と下の住民を集め触れ合いの場を設ける
盤如2・3洞の平地と傾斜面の間に交点となるオープンスペースは下がっていた住民のコミュニティのための場所となり、住民との触れ合いをはかる。



自立性のある 傾斜面まちの新エネルギーシステム

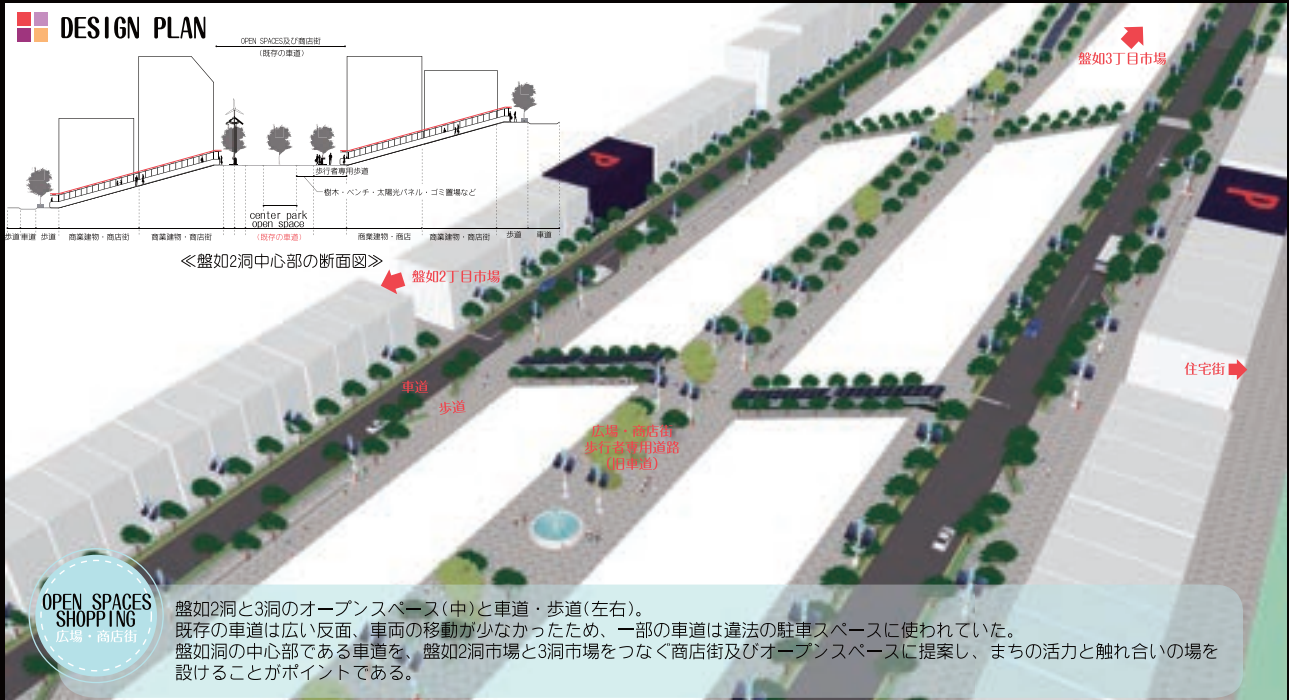
太陽エネルギーをはじめとする地域に賦与された自然エネルギーの利用から釜山市・海雲台区の盤如洞環境整備事業「2020生態公園造成事業」の自然生態の保存・里山づくり体験などとともに、古木を伐採するとき廃材などをエネルギー化するシステム、住民の生ゴミなどをエネルギー化して再び住民にエネルギーをカサネシステムの提案は、20~30年後の持続可能な傾斜面まちの自立性を高め、新たなライフスタイルと魅力のあるまちをつくる。

「釜山市の傾斜面まち盤如洞街づくり」

PATH - 1

釜山の傾斜面まちの盤如洞街づくり

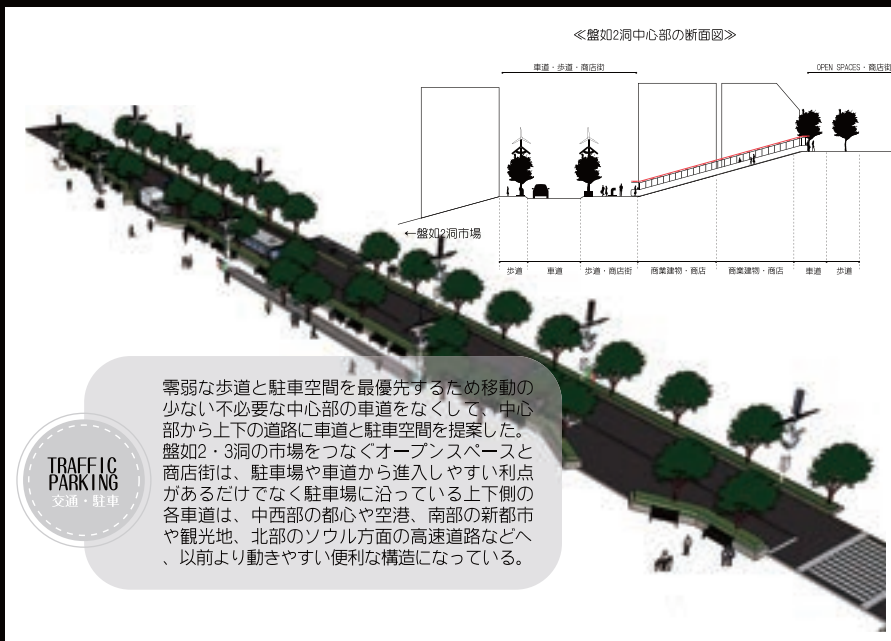
釜山市の傾斜面まちデザインプロジェクト



OPEN SPACES SHOPPING
広場・商店街

盤如2洞と3洞のオープンスペース(中)と車道・歩道(左右)。既存の車道は広い反面、車両の移動が少なかつたため、一部の車道は違法の駐車スペースに使われていた。盤如洞の中心部である車道を、盤如2洞市場と3洞市場をつなぐ商店街及びオープンスペースに提案し、まちの活力と触れ合いの場を設けることがポイントである。

拡大より効率的な縮小でより便利になる道をはかり、駐車場の条件・位置がまちを変える



TRAFFIC PARKING
交通・駐車

零弱な歩道と駐車空間を最優先するため移動の少ない不必要な中心部の車道をなくして、中心部から上下の道路に車道と駐車空間を提案した。盤如2・3洞の市場をつなぐオープンスペースと商店街は、駐車場や車道から進入しやすい利点があるだけでなく駐車場に沿っている上下側の各車道は、中西部の都心や空港、南部の大都市や観光地、北部のソウル方面の高速道路などへ、以前より動きやすい便利な構造になっている。



ソーラーエネルギーやゴミ、山の廃木材などを利用し自立性のある新エネルギーシステムを構築、持続可能な傾斜面のエコまちをはかる



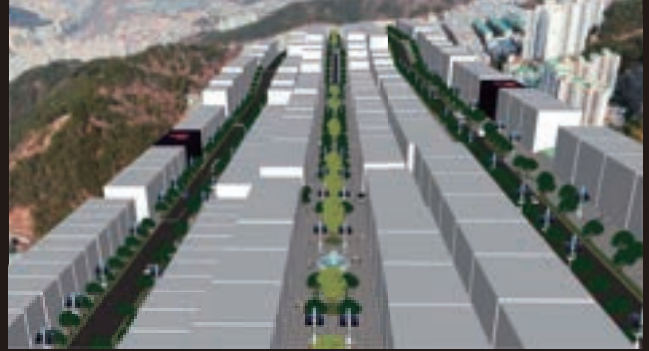
NEW ENERGY
新エネルギー

盤如洞の地形や費用などの状況に合わせた段階的導入で、太陽光・風力など自然エネルギーの利用から釜山市・海雲台区の盤如洞環境整備事業「2020生態公園造成事業」の自然生態の保存・里山づくり体験などとともに、持続可能な傾斜面まちの自立性を高め、新たなライフスタイルと魅力のあるまちをつくる

「釜山市の傾斜面まち盤如洞街づくり」

P A T H - 2

駐車場と車道の動線で商店街とオープンスペースをつなぐ・上下部の住民を集め生活の活力と触れ合いの場を設ける



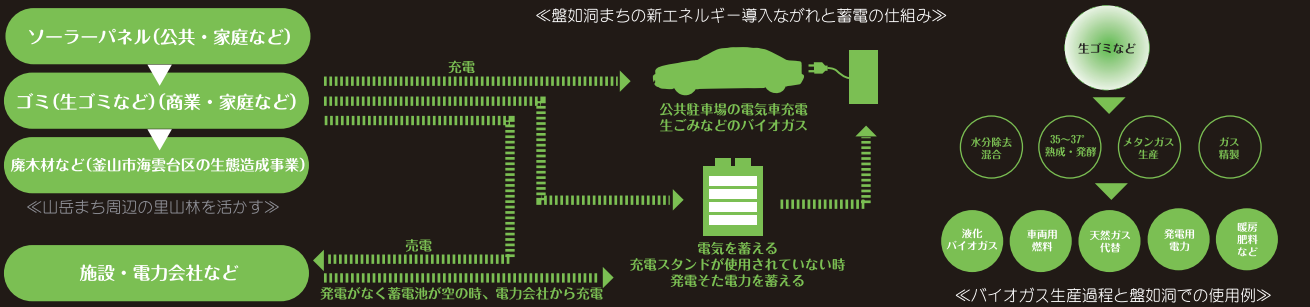
商店街・オープンスペース



商店街・オープンスペース

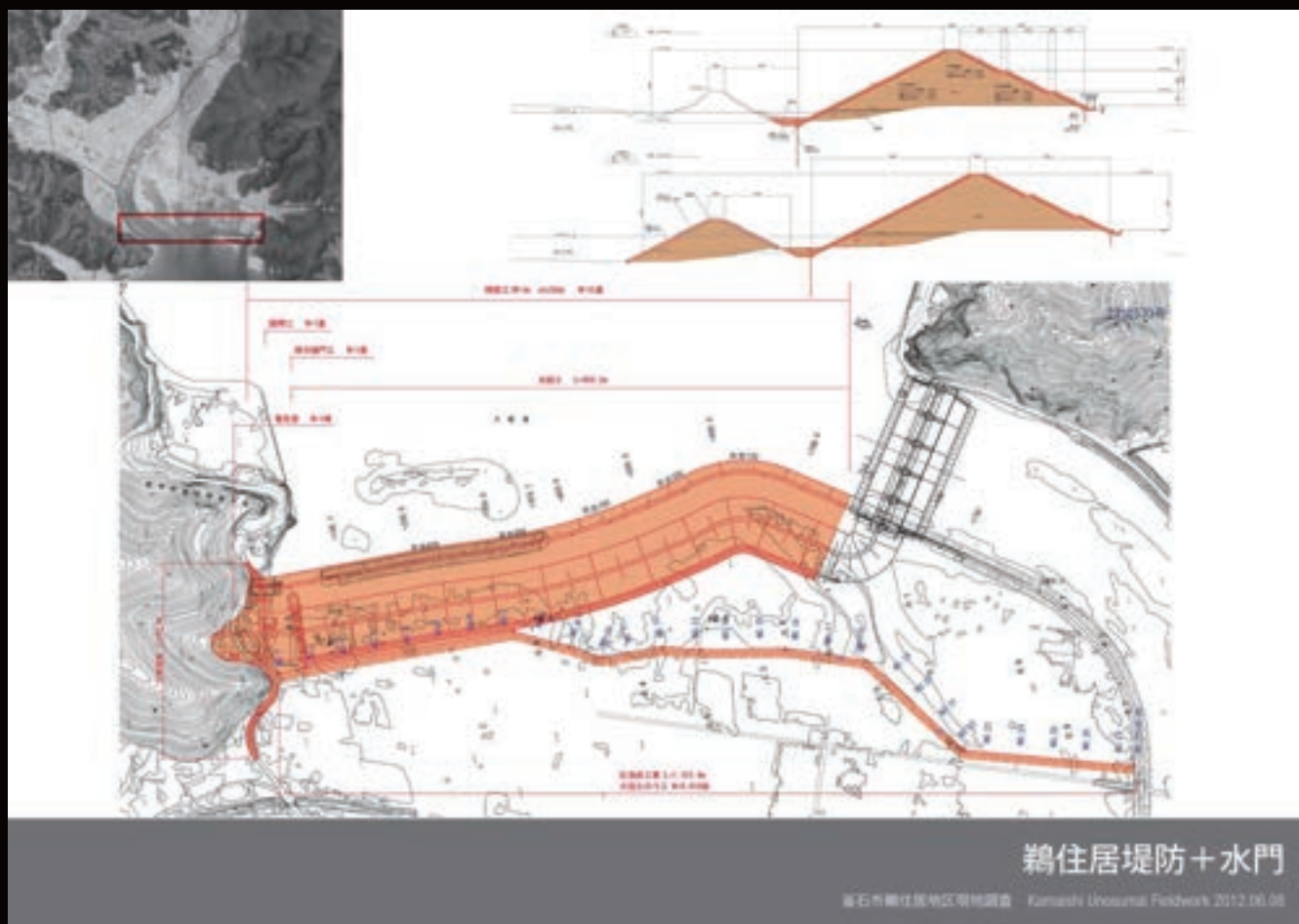


※出典・参考：ハイブリッドシティヨタ
SSSパネル放送参考



「 UNOSUMAI LANDSCAPE DESIGN 」

P A L N N I M G



伊藤豊雄建築事務所・E D E S G I N

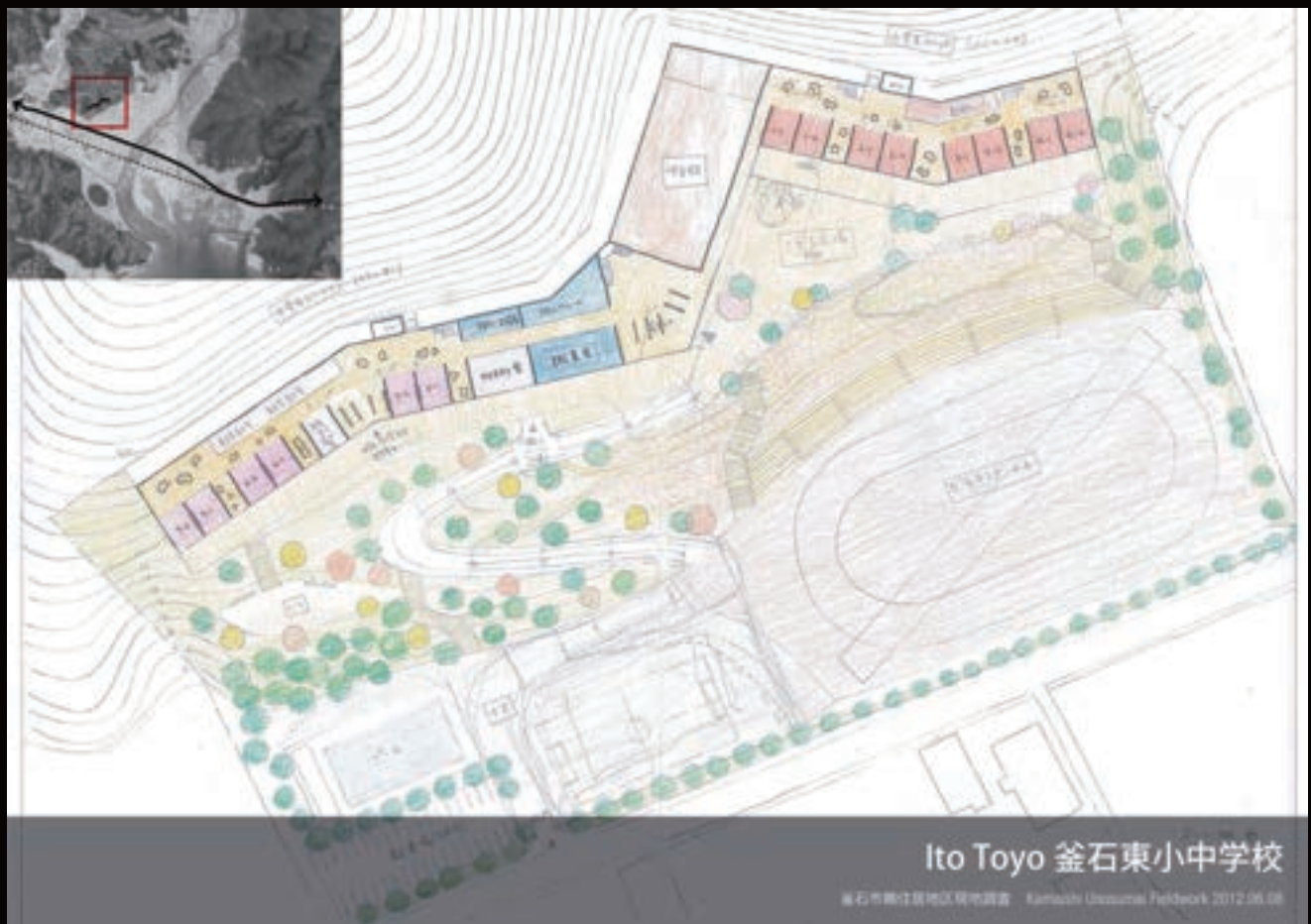
共同プロジェクト

「 UNOSUMAI LANDSCAPE DESIGN 」

※制作期間：2011年4月～進行中

「 UNOSUMAI LANDSCAPE DESIGN 」

M A S T E R P L A N



C O N C E P T

海岸付近に２段式の防潮堤（５ｍと１５ｍ）を設置、安全性を高め、
釜石の奇跡で有名な鶴住居小・中学校はラグビー場を建設、
学校は高台に移動させ、非難場所にも活用する。
JR 鶴住居駅付近から海岸部まで新果樹栽培地区に提案し、
地域の経済性も考慮したコンセプト。



UNOSUMAI in KAMAISHI-CITY's NEW PARK SINCE 2011
 -SUMAIRU-
 UNOSUMAI +SUMAI+SMILE

■ 提案要旨

東日本大震災被災地復興計画が決まり、既存の小・中学校が高台に移動し学校の跡地がラグビー場や公園用地（またはメモリアルパーク）として確定された。本計画提案の考え方としては、東日本大震災地区の一つの慰霊の場としてメモリアルパークを提案することだけでなく、「地域の資産」として東日本大震災釜石復興計画や基本方針、地区の意見などの総合的な考え方に基づき、市域全体の復興を優先させる観点から、鶴住居メモリアルパークと釜石ハイウェイオアシス、東日本大震災鶴住居博物館などを提案することである。本計画は地域経済、安全・安心、福祉・健康、休憩・憩い、生活・暮らし、交通、教育、文化・観光といったまちの復旧から復興へ「釜石の将来像」として持続的なコミュニティを形成・維持・管理することなどを目指している。

■ 釜石地区の現状分析と重点考慮事項(赤)

復旧から復興に向け考慮すべき課題	復興まちづくりの基本目標
新たな津波災害対策の構築	暮らしの安全と環境を重視したまちづくり
人口減少・少子高齢化への対応	絆と支えあいを大切にすまちづくり
交流人口の拡大への対応	生活の安心が確保されたまちづくり
産業の再生と雇用の場の確保	人やもの、情報の交流拠点づくり
安心できる暮らしの確保	ものづくり精神が息づくまちづくり
次世代に継承する取組の展開	強く生き抜く子どもを育てるまちづくり
地域を支える人材の確保	歴史文化やスポーツを生かしたまちづくり
地域資源を生かしたまちづくりの展開	

12のスクラムプラン
生命優先の震災まちづくりの推進
住まいとコミュニティの再構築
主要公共施設の再配置と土地利用
創造的エネルギー対策の推進
生活の安心ネットワークの構築
新産業と雇用の創出
三陸交通ネットワークの形成
食を支える地域産業の展開
商業と交流空間の機能的展開
震災メモリアル伝承事業の推進
新機能で地域を支える学校の整備
将来の希望を創る個性的な取組の推進

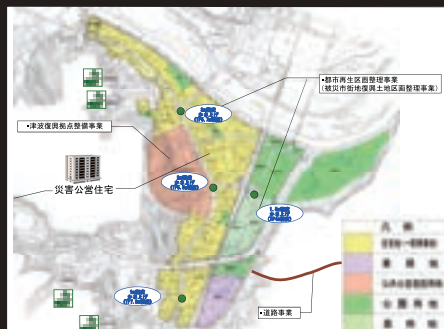
■ 鶴住居の懇談会の結果報告

- 三陸縦貫自動車線や東北横断自動車道釜石秋田線の整備
- 三陸地域の玄関として、人やものの流れが飛躍的に拡大
- 自然・歴史資源、津波教訓の継承など特色ある要素活用
- 魚市場・水産加工業の拠点地、釜石ブランドの確立
- 新たな住居・産業エリアをJR山田線以西に集約
- 国道45号線において防災上必要な地盤嵩上げにより住宅地、道路、公園等を整備、安全な住居地確保
- コンパクトな市街地の形成・コミュニティの再建築

■ 釜石市復興計画



■ 鶴住居地区の土地利用計画



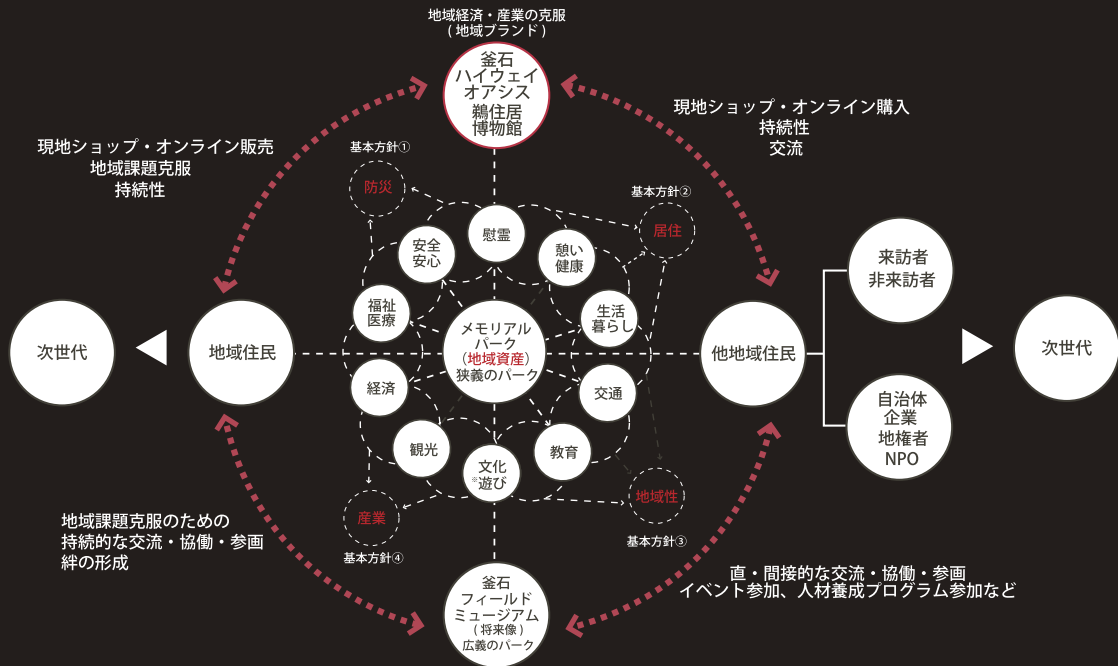
■ 鶴住居地区の土地利用計画



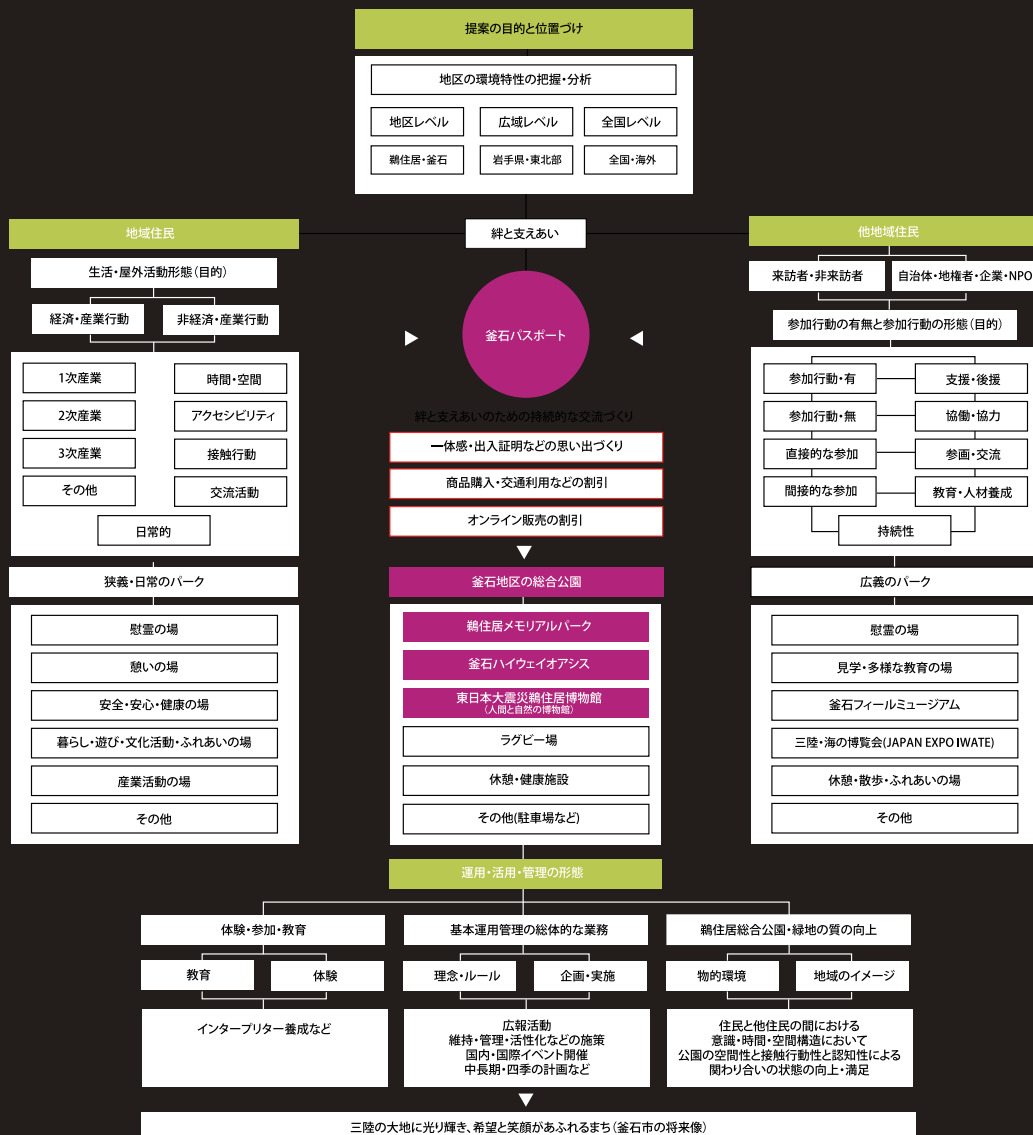
■ 釜石市環境未来都市構想・釜石フィールドミュージアム



■ 鶴住居メモリアルパーク・釜石ハイウェイオアシス・鶴住居博物館(釜石総合パーク)の提案と位置づけ



■ 釜石総合パークの提案の内容



-SUMAIRU-
UNOSUMAI + SUMAI + SMILE

■ 鶴住居地区計画・提案図 ■ 住宅地 ■ 公共施設 ■ 公園 ■ 業務地 ■ 農地



現在土地利用計画と河川



JR鶴住居メモリアルパーク駅の提案
(UNOSUMAI MEMORIAL PARK STATION)

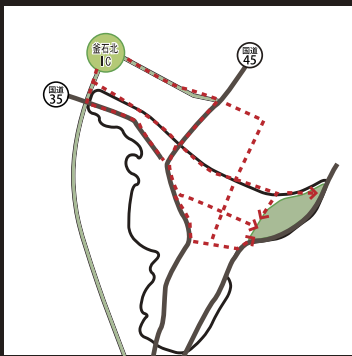


駅・公園と人(住民・来訪者)の動線(赤)

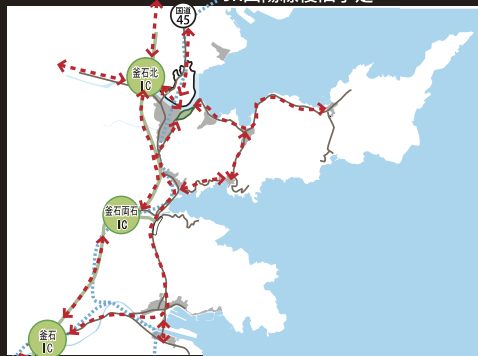


国道35・45号(黒)と車の動線の提案(赤)

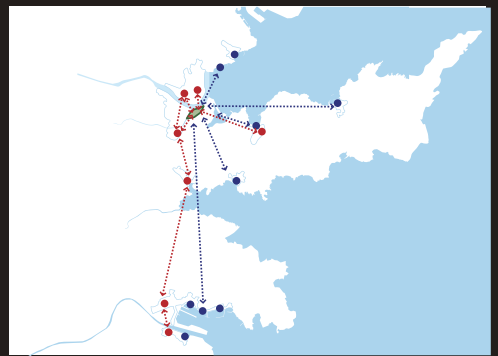
■ 広域計画・提案図



釜石北ICから鶴住居総合パークへの経路



広域地域から鶴住居総合パークへの経路
(震災時非難・支援道路)



釜石漁業市場(青)と業務・産業(赤)エリアとの協力・交流

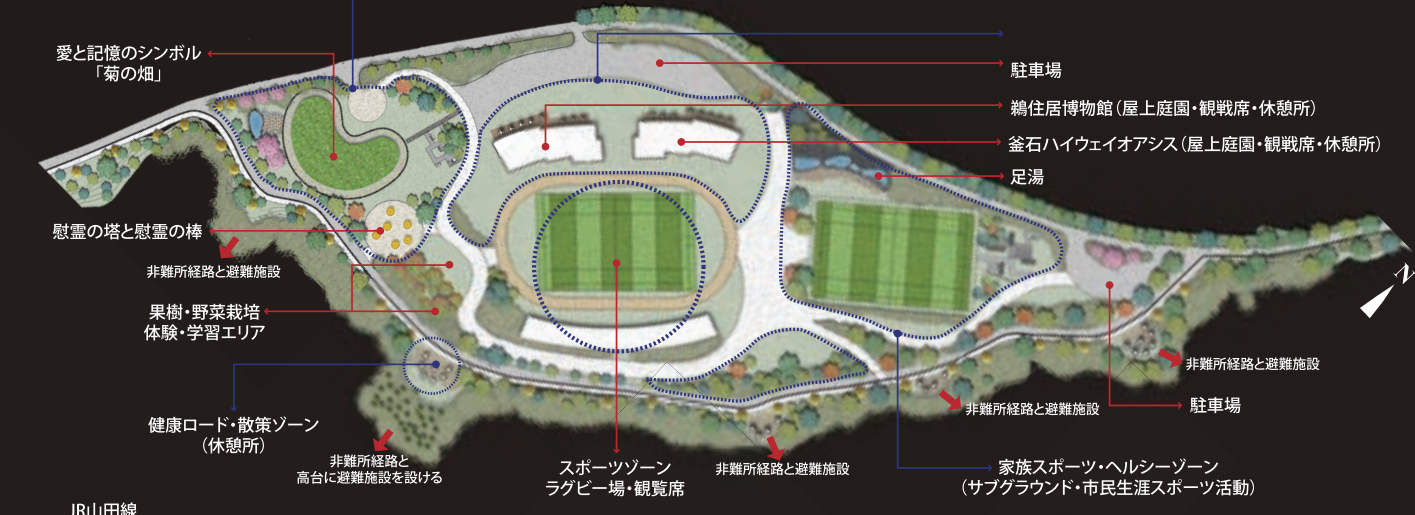
■ 持続的な交流と絆づくりのための提案 -KAMAISHI PASSPORT SYSTEM-

KAMAISHI PASSPORT(釜石総合パスポート)は、釜石市が全国の市民を対象に釜石住民と一般の人の交流と絆の形成を目的に希望者に限って発行する釜石総合パスポートの総称とそのシステム。来訪者にとって本パスポートは、釜石市(鶴住居)のメモリアルパークから観光、商品購入、公共交通(釜石有料道路)利用、イベント、博物館、公共施設利用などの出入証・割引券などの機能となり、非来訪者は釜石市から製造された釜石ハイウェイオアシスや釜石魚市場などのネット販売の商品購入から将来の国際イベント・祭・教育・学習・体験などの機会が与えられる。釜石住民にとっては、日常に持ち歩く子供・高齢者などのための安全指針書(図)、家族の位置認識・感知などの機能から公共交通利用、公共施設自動出入口システムなど、復興の新しい釜石市の施設にあわせた全世代が使用できる使いやすさが特徴である。



■ 鶯住居メモリアルパーク(釜石市総合パーク)提案のマスタープラン

エントランス広場ゾーン
メモリアルパーク(慰霊のゾーン)



愛と記憶のシンボル
「菊の畑」

慰霊の塔と慰霊の椿

非難所経路と避難施設

果樹・野菜栽培
体験・学習エリア

健康ロード・散策ゾーン
(休憩所)

非難所経路と
高台に避難施設を設ける

駐車場

鶯住居博物館(屋上庭園・観戦席・休憩所)

釜石ハイウェイオアシス(屋上庭園・観戦席・休憩所)

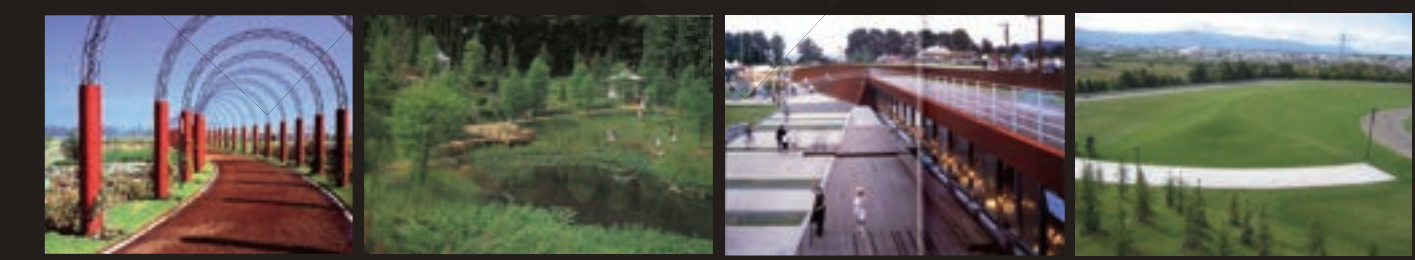
足湯

スポーツゾーン
ラグビー場・観覧席

非難所経路と避難施設

家族スポーツ・ヘルシーゾーン
(サブグラウンド・市民生涯スポーツ活動)

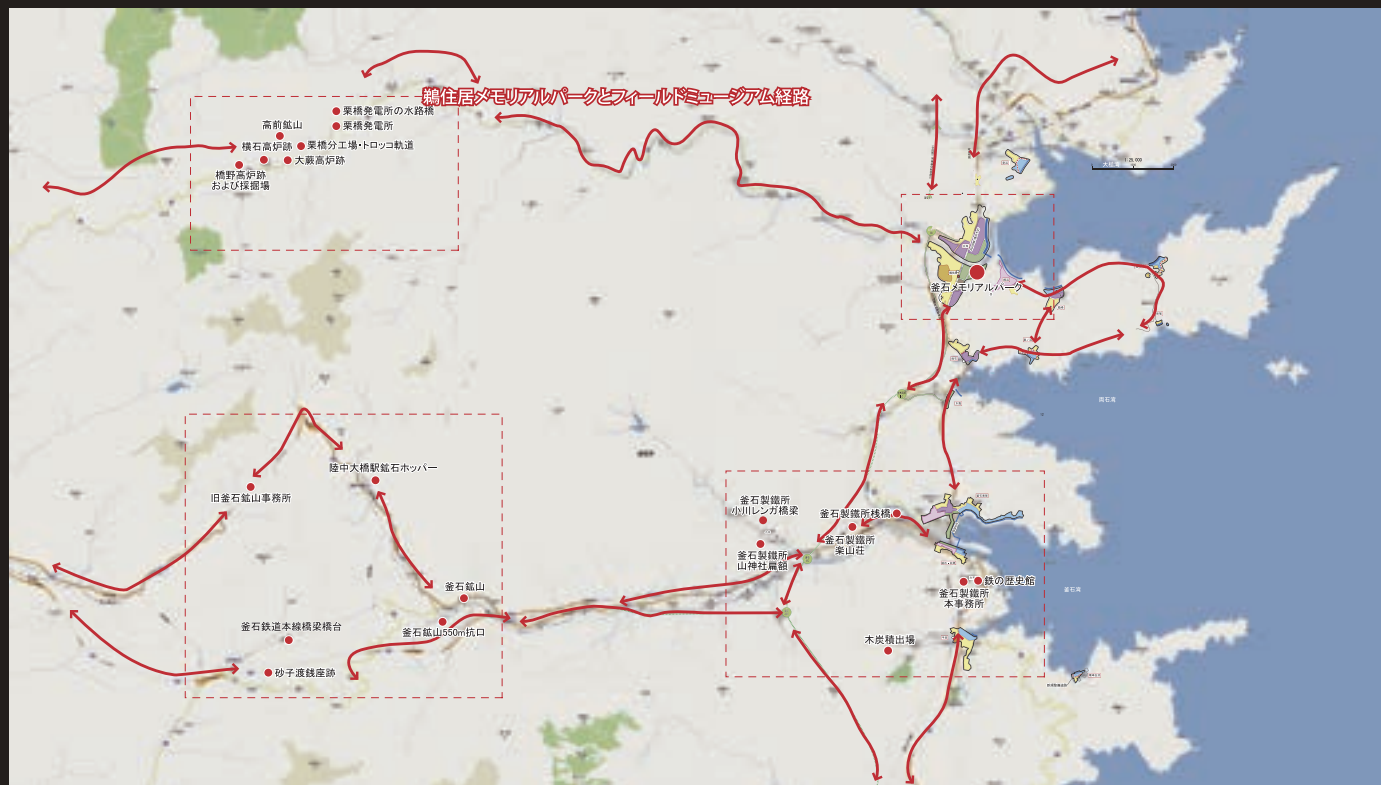
JR山田線
鶯住居メモリアルパーク駅
(約徒歩2~3分)



<慰霊の場進入路の例> <慰霊の場周辺の庭の例> <釜石ハイウェイオアシスの屋上庭園の例> <芝生スタンド観戦席の例>

■ 広域計画図

■ 住宅地 ■ 公共施設 ■ 公園 ■ 業務地 ■ 農地 ■ 観光レクリエーションエリア



■ 鶯住居メモリアルパークのマネジメント(積層ピラミッド)

